学校番号	3010

令和8年度　　工業　　科

教科	工業	科目	映像デザイン論	単位数	2 単位	年次	3 年次
使用教科書	自主編成教材						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

映像・写真技術の学びを発展させ、グラフィックデザインへの活用として印刷技術を習得する科目です。四大版式の理論やデジタル画像処理、カラーマネージメント、組版、製本について体系的に学び、専門知識を実社会で活用できる実践力を養います。主体的かつ協働的に取り組む姿勢を重視し、小テストや課題プレゼンテーション、振り返りを含む提出物の充実度を高く評価します。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
四大版式、DTP、製本、印刷技術、色彩管理（CMS）の理論を学び、デザインの基礎知識を習得する。
【思考力、判断力、表現力等】
印刷特性を理解し適切な技術を選択、意図に沿ったデザインや製本を論理的に構成する表現力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
日常のデザインから主体的に学び、分野の発展に主体的かつ協働的に取り組む高い意欲と人間性を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	映像デザインの基盤となる四大版式の理論、DTPのワークフロー、製本技術、日本語組版のルールを正しく理解することを重視する。デジタル画像処理やカラーマネージメント（CMS）、色空間の仕組みを習得し、目的に応じた適切な表現を行うための専門的知識と技能を評価する。習得した技術を実社会で活用できる基礎力の定着を評価の対象とする。	印刷技術の特性を理解し、表現意図やコンセプトに合わせて最適な技術や綴じ方、レイアウトを論理的に判断・選択する力を評価する。DTPに適した画像制作や文字によるデザインの重要性を認識した紙面構成を行い、情報を的確に伝えるエディトリアルデザインを構築する能力を重視する。科学的な根拠に基づき、意図を視覚化する適切な思考力と表現力を評価する。	日常的にグラフィックデザインに高い関心を持ち、広告や印刷物など身の回りのデザインから主体的に学ぼうとする姿勢を評価する。専門用語を正しく理解し、知識・技術を絶えず向上させようとする意欲を重視する。映像・写真技術で培った経験をデザインに活用し、分野の発展に向けて主体的かつ協働的に取り組む積極的な態度を評価の対象とする。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	DTP・製本	DTPのワークフローや製本の種類（上製本・並製本）、綴じ方に応じたレイアウトの注意点など、本ができるまでの構成と手順を習得する。	a:製本の手順、デジタル画像の解像度やカラーモードの仕組みを正しく理解している。 b:印刷技術の特性を理解し、制作の目的に合わせて適切な技術や用紙、製本方法を論理的に判断・選択できる。 c:日常的に広告や印刷物などのグラフィックデザインに興味を持ち、身の回りにあるデザインから主体的に学ぼうとする姿勢がある。	学習状況の観察 小テスト 定期考査	学習状況の観察 定期考査 レポートの取り組み状況	学習状況の観察 レポートの取り組み状況
	印刷技術	四大版式（凸版・凹版・平版・孔版）の技術理論を理解し、インキや用紙の知識、代表的な加工技術について学ぶ。	a:四大版式の理論を正しく理解している。 b:印刷技術の特性を理解し、制作の目的に合わせて適切な技術や用紙、製本方法を論理的に判断・選択できる。 c:日常的に広告や印刷物などのグラフィックデザインに興味を持ち、身の回りにあるデザインから主体的に学ぼうとする姿勢がある。	学習状況の観察 小テスト 定期考査	学習状況の観察 定期考査 レポートの取り組み状況	学習状況の観察 レポートの取り組み状況
	組版	日本語組版の基礎知識や紙面の構成、文字とフォントの役割について学ぶ。和文書体と欧文書体の違いを理解し、文字によるデザインの重要性を認識することで、グラフィックデザインにおける適切な情報伝達のためのルールと技術を習得する。	a:日本語組版のルール、を正しく理解している。 b:印刷技術の特性を理解し、制作の目的に合わせて適切な技術や用紙、製本方法を論理的に判断・選択できる。 c:日常的に広告や印刷物などのグラフィックデザインに興味を持ち、身の回りにあるデザインから主体的に学ぼうとする姿勢がある。	学習状況の観察 小テスト 定期考査	学習状況の観察 定期考査 レポートの取り組み状況	学習状況の観察 レポートの取り組み状況

2	色とCMS	色を数値で表す仕組みや色空間、カラープロファイルを学び、目的に合わせた適切な出力設定を行うためのCMS（カラーマネジメントシステム）の基礎を習得する。	a:色空間やカラープロファイルの役割を理解し、適切な画像処理や出力設定を行うための基礎知識を身に付けている。 b:デジタルデータの特性を把握し、カラーモードや色深度の関係を考慮した上で、適正な画像処理方法を選択・実践できる。 c:日常的に広告や印刷物などのグラフィックデザインに興味を持ち、身の回りにあるデザインから主体的に学ぼうとする姿勢がある。	学習状況の観察 小テスト 定期考査	学習状況の観察 定期考査 レポートの取り組み状況	学習状況の観察 レポートの取り組み状況
3	デジタル画像処理	画像の再サンプル、解像度、色深度といったデジタル画像の仕組みとカラーモードの関係を深く理解する。	a:デジタル画像の解像度やカラーモードの仕組みを正しく理解している。 b:デジタルデータの特性を把握し、カラーモードや色深度の関係を考慮した上で、適正な画像処理方法を選択・実践できる。 c:日常的に広告や印刷物などのグラフィックデザインに興味を持ち、身の回りにあるデザインから主体的に学ぼうとする姿勢がある。	学習状況の観察 小テスト 定期考査	学習状況の観察 定期考査 レポートの取り組み状況	学習状況の観察 レポートの取り組み状況

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態